

この冬、古代の人に近づいてみよう



平成16年度 大人の考古学講座 (後期)

土器! ドキッ! 体験隊

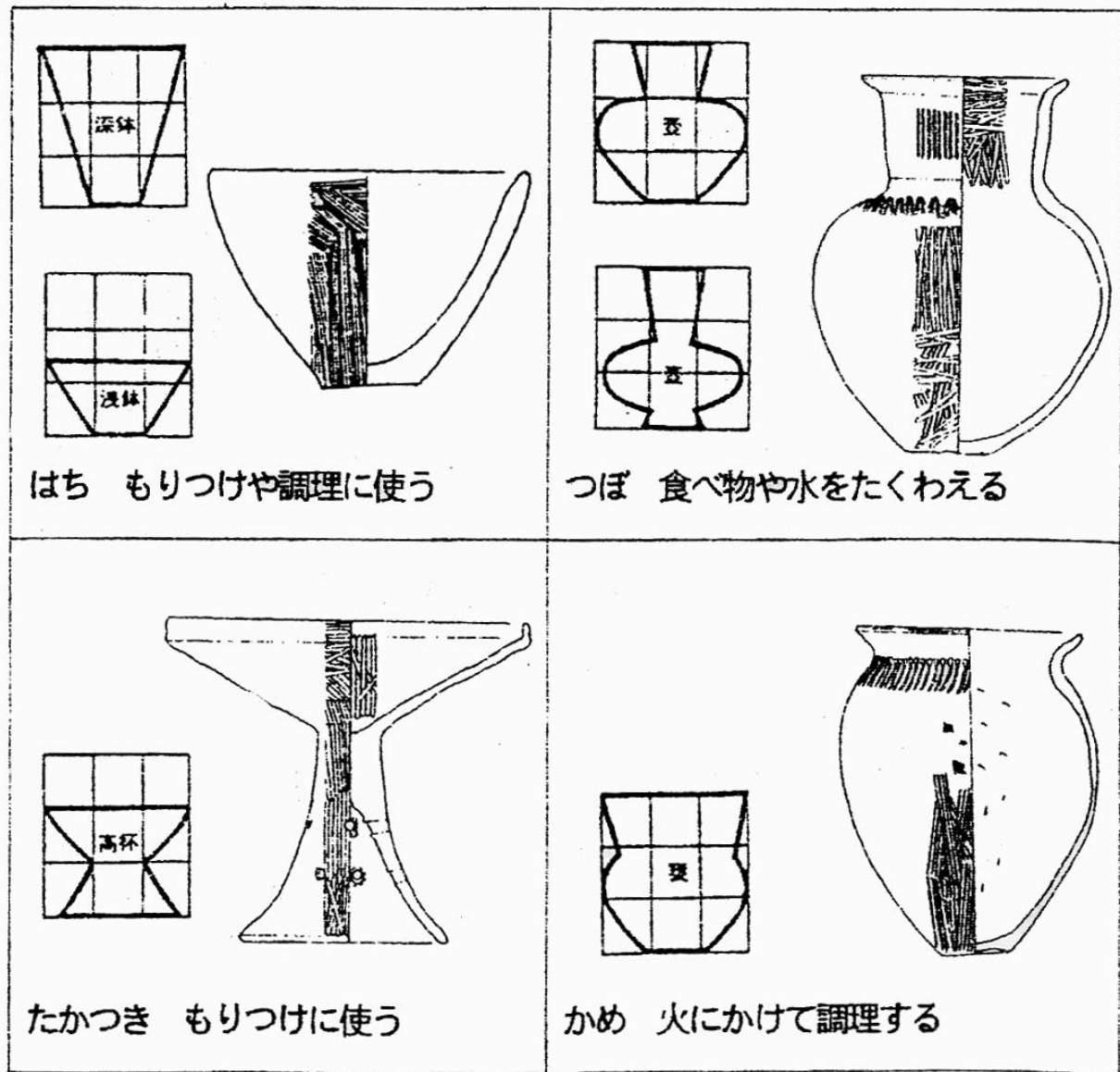
ー 弥生土器をつくろうー



土器を観る

土器は使い道によって種類が分けられています。

また、使い方だけでなくどのように作ったかを想像できる部分もあります。

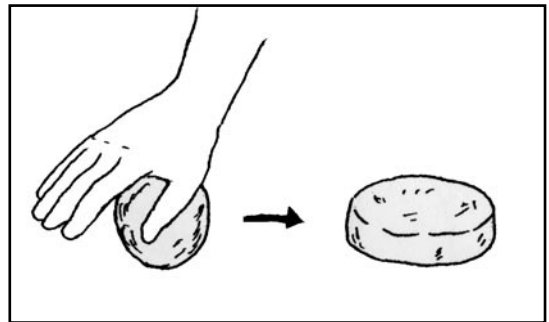


土器をよく観察すると粘土をつなげた跡がみつかったり、表面に模様がついています。これらの跡から土器をどのように作ったかを想像してみましょう。

土器を作る

1 土器の底を作る

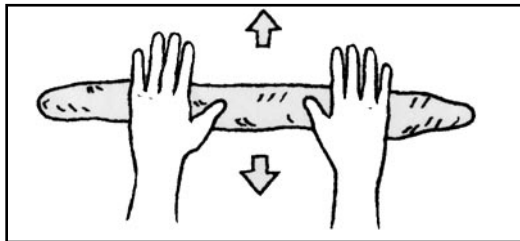
粘土で球を作り、それを押しつぶして円盤形にすれば、土器の底になります。



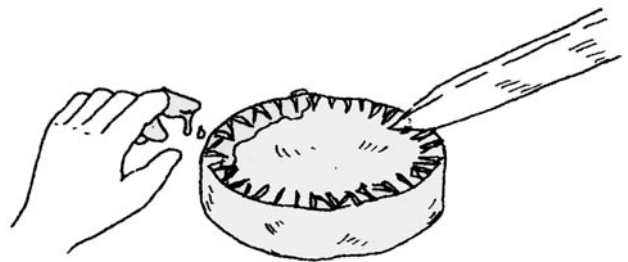
2 粘土ひもを積み上げる

輪積みという方法で、粘土ひもを積み上げます。

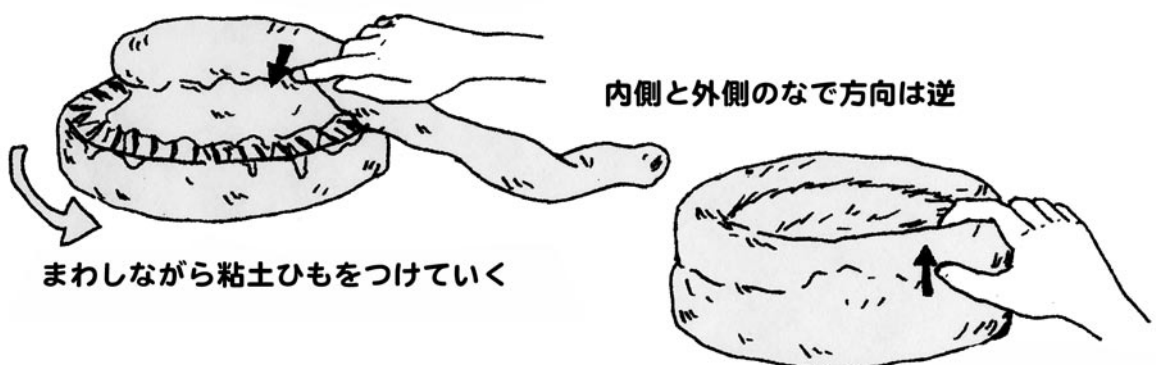
①粘土ひもをつくります。



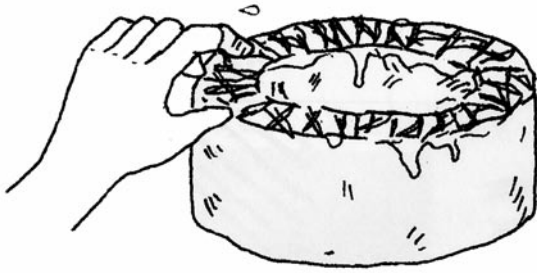
②土器の底の粘土ひもを載せるところに刻みを入れ、ドベ（粘土を水に溶かしこんだもの）を塗ります。



③粘土ひもを載せ、内側はなで下げ、外側はなで上げるか、内側なで上げ、外側なで下げます。（内と外を逆向きになでるようにしてください）。粘土の間に空気が入らないようにすきまはしっかりと埋めましょう。



④ ③で載せた粘土ひもの上に刻みを入れドベを塗ります。



⑤粘土ひもを載せ、なでます。



⑥粘土ひもを積み上げる作業を繰り返し、土器の形を整えましょう。



ポイント

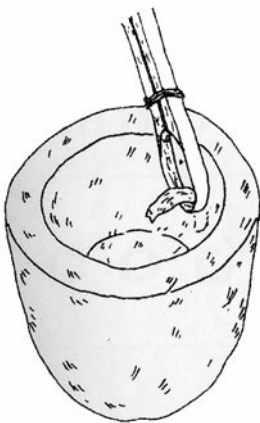
土器を外側に開きたい時には粘土ひもをやや外側にずらして載せ、内側にすぼめたい時は、やや内側にずらして載せます。

3 成形・調整を行う

土器の形を整えたり、土器の表面を磨いたりしましょう。

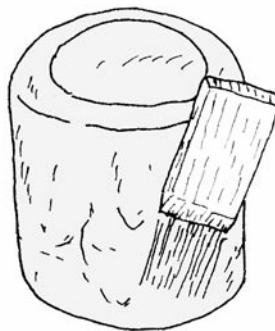
けずり

土器の形を整えます。



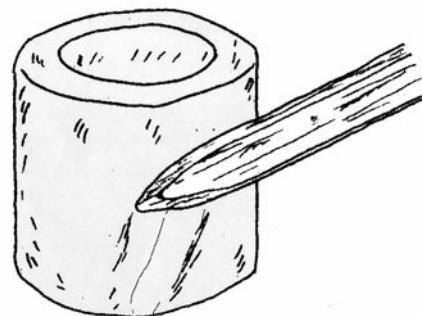
ハケ目調整

土器の表面を整えます。



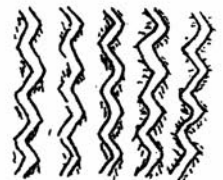
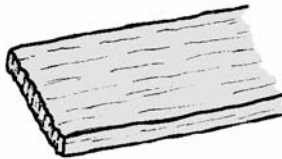
ヘラ磨き

土器の表面を磨きます。



4 紋様をつける

施紋具を使い、紋様をつける。紋様には様々な種類のものがあります。

	施紋具	できる紋様
なわを回転させる（縄紋）		
ひもを棒にまきつけて回転させる（より糸紋）		
刻み目をつけた棒を回転させる（押型紋）		
くし状の道具で平行な線を入れる（櫛がき紋）		
へらで線を入れる（へらがき紋）		
貝で紋様を入れる（貝殻紋）		
竹を押し付ける（竹管紋）		
半分に割った竹を押し付ける（半裁竹管紋）		

土器を焼く

作った土器を野焼きという方法で焼きます。



①穴を掘り、その周りに土器を置き、じょじょに火に近づけて、土器に残った水分をとばしていきます。

この作業を時間をかけてできたかどうかは野焼きの成否に関わってきます。

②土器が十分乾燥し、温まったらいったん火を弱め炭の上に土器をおいていきます。中に入れていいかどうかのサインは土器に現れますのでどんなサインか注目してください。



③ゆっくり薪の量をふやし、火をじょじょに強くしていきます。

火が強くなると、火に当たらなくてもやけどをしてしまいますので、耐火手袋と防護面は忘れずに！



④焼きあがった土器はじょじょに火から遠ざけて冷まします。ここでもあせりは禁物です。

覆い焼き

1 回目に作った土器は覆い焼きで前日から焼きます。弥生土器の中にはこの方法で焼かれたと考えられる土器があります。



薪などの燃料を組んだ上に土器を積み重ねます。
その周りをワラで覆います。

ワラで覆った上から粘りのある泥を塗り、若干の空気穴、火口以外はほぼ密閉した状態で点火します。
あとは様子を見ながら約 20 時間まで焼き上がりです。

